

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 6 月 30 日現在

機関番号：43807

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04017

研究課題名（和文）日本における訪問介護事業所の終末ケア全国実態調査研究

研究課題名（英文）Terminal Care Research of Home Welfare in Japan

研究代表者

佐々木 隆志（Sasaki, Takashi）

静岡県立大学短期大学部・短期大学部・教授

研究者番号：50178654

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は高齢者が在宅福祉サービスを利用して、自宅で亡くなったケースの研究である。高齢者の死亡は、病死と事故死があげられる。当初は前者を対象とした研究であったが、津久井やまゆり園事件後、事故死もケアの対象として研究した。1. 日本の高齢者は何歳になっても、住み慣れた自宅で死を迎えたいと考えている。2. 8割以上が施設や病院で亡くなっている。3. 在宅福祉サービスを利用者し、自宅で死を迎えるケースは5件あった。4. 在宅終末ケアが可能な事例を分析した。5. 在宅終末ケアは地域で医療と福祉看護と介護の連携が大切である。高齢者の終末ケアの要は、医療が24時間365日の対応が必要で、訪問看護ステーションも欠かせない。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1. 日本型高齢者福祉は、高齢者の意思を尊重すれば在宅型福祉である。多くの高齢者は、福祉サービスや医療サービスをぎりぎりのところまで望まない。家族や親類は在宅介護に限界を感じているケースが数多くある。2. 日本型高齢者福祉は、終末ケアを位置づけた体制が急務であることが本研究から見えてきた。一世帯に複数のニーズが内在し8050問題もその一つである。3. 高齢者の終末ケアは、8割以上が施設や病院で死を迎えているが、施設では生活・介護の場であり、終末の場所ではないとした考え方がある。4. 終末を看取ることにより介護は完結すると筆者は考える。5. 終末ケアの要は24時間365日の医療体制と訪問看護が重要である。

研究成果の概要（英文）：This study is a study of cases where elderly people die at home using home welfare services. The deaths of the elderly include disease death and accidental death. At the beginning, the study was for the former, but after the Tsukui mountain lily garden incident, accidental death was also studied as a target of care. 1. Japan's elderly people want to die at their homes they are accustomed to, no matter how old they are. 2. Where there are no elderly people, more than 90% have died at facilities and hospitals. 3. There were 5 cases where the home service was used by users and paper was used and death occurred at home. 4. We analyzed cases where home terminal care was possible. 5. In home terminal care, cooperation between medical care and welfare and nursing and care is important in the community. The crux of terminal care for the elderly requires care 24 hours a day, 365 days, and a visiting nursing station is essential.

研究分野：高齢者福祉

キーワード：シシリー・ソンドース 終末ケア 8050問題 医療体制 訪問介護 日本型高齢者福祉

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 研究の背景

筆者はこれまで高齢者の終末ケアを中心に研究を進めてきた。

高齢者が、いつ、どこで、どのように終末ケアを迎えているか、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など介護保険法による施設を中心に、終末ケア研究を実施してきた。

### (2) 研究成果

研究成果は『日本における終末ケアの探究』(1997年)、『日本における終末ケアマネジメントの研究』(2009年)、“Study of End stage Care Management in Japan”(2014年)等がある。日本では、2000年の社会福祉構造改革以降、在宅及び地域サービスが主流となり、介護保険法の改正により、地域密着型サービスが加速し、地域ごとに安心、安全な暮らしが老後のなかで保障されてきている。高齢者の終末ケアを考える時、人間の死は大別して病死、老衰等、事故死が考えられる。本研究では地域や在宅での終末ケア研究について病死と事故死から分析する。

### (3) 終末ケアの類型

高齢者の終末ケアは病死、老衰、自殺、事故死などさまざまである。近年では8050問題など、老後のダブル、トリプル介護を抱える世帯が急増してきている。また、ヘイトスピーチでみるように、表現の自由のもとに障害者、高齢者などの存在を軽視した報道もある。

しかし、だれもが地域で安心して生活ができる地域づくりと終末ケア体制が急務である。今日では、その介護状態が窮迫し、介護殺人、職員による殺傷、介護事故死や自殺・殺傷事件に及んでいるケースがここ数年で多くなってきている。

そこで、筆者は高齢者の在宅サービスに焦点を当て、いつ、どこで、どのように終末を迎えているかの研究と2016年7月に起きた津久井やまゆり園障害者殺傷事件についても研究を遂行した。

## 2. 研究の目的

本研究は、高齢者の終末ケア研究では、高齢者がいつ、どこで、どのように終末を迎えているか、高齢期における病死や事故死状態を含め調査することを目的とする。突然死の研究では、2016年7月26日神奈川県津久井やまゆり園事件の入所者殺傷事件も論究した。(「新聞記事」参照)

## 3. 研究の方法

上記の目的達成のため、高齢・障がい者施設及び居宅サービス事業所に対してアンケート調査及び聞き取りの両面から行い、在宅終末ケアの体制及び施設終末ケアの体制及び終末ケア実績について調査した。

神奈川県津久井やまゆり園、入所者19人の突然死について家族、容疑者及び関係機関から資料収集を行い、終末ケア研究と連動して論究した。

## 4. 研究成果

終末ケアの理論的研究では、イギリス、セント・クリストファホスピス創設者、シシリー・ソンドース研究を中心に論理展開した。シシリーは、その研究のなかで終末に近い者は、その基本的なニーズとして、社会的ニーズ、身体的ニーズ、精神的ニーズ、宗教的ニーズの必要性を述べている。特に、彼女の論文で特筆すべき点は、死に向う利用者は、Cure(治療)より、Care(介護、看取り)のニーズが高くなると論述している。このシシリーの先行研究から、日本の終末ケアの現場で学ぶ点が多い。それは、高齢者の終末期では、医療に委ねる傾向が高く、そこに介護福祉や社会福祉の専門性が発揮しにくい現状にある。

さらに、介護福祉教育においても終末ケアや終末後の福祉専門職の専門性が確立されていない現状にもある。高齢者の在宅ケア研究プリテストを進める中で、その実態は、把握しにくいことがわかった。そこで、在宅サービス事業者及び訪問看護事業者を通じて、面接手法により在宅終末ケアの把握に努めた。

研究1年目で在宅終末ケアの先行研究を行い、研究2年目では、高齢者の地域における在宅サービスのなかで、終末ケアがどのように実践されているか、聞き取り調査を実施しその成果をアンケートに入れ、終末ケアの在宅での実態を把握する予定であった。しかし、在宅で死を迎えたケースは、ほとんどみられず、その多くの場合はデイサービス等を利用し、病状が急変したケースに限定すれば、病院へ入院し、そこで終末を迎えている現状が明らかにされた。

在宅で最期まで看取り、亡くなったケースは5ケースのみであった。即ち、在宅終末ケアの状況を探したが見当たらなかった。その在宅終末ケアが可能だったケースについて、利用者の同意を得て分析を行った。その結果以下の状況にある。

### 【在宅で看取ったケースの分析】

かかりつけの医師がいたこと。24時間365日の医療体制の確保が必須である。

訪問看護ステーションの24時間対応が機能していること。

終末ケアマネジメントが確立されていること。

ケアマネジャーと家族及び本人の在宅終末ケアについて、在宅終末ケア体制について同一の方向を向いており、最後まで自宅で過ごすことを話し合っていたこと。

社会資源を活用していたこと。

上記の他に、在宅における主たる介護者がマネジメントしていた点が終末ケア実践を可能にしていたことがわかる。

本研究から、筆者は当初、終末ケアは、施設の終末ケア、在宅での終末ケアと2類研究を仮説として持っていたが、例えば10人の高齢者には10人の生活のグラウンドがあり、その生活の延長線上に終末ケアを位置づけた考え方をワーカー自身が持つことが大切である。また、介護に係る職員は、終末ケアのケース研究を日々重ねることで終末ケアのQOLを高めていくことが可能になると本研究を通じて考えた。

本研究から高齢者の「介護」は、終末ケアを看取ることにより介護が完結すると筆者は考えている。その利用者支援、生活の場である終末介護が人生のゴールに近づく介護業務や福祉分野全般から離れ、医療分野に入っていることがうかがわれる。つまり、在宅から施設、施設から病院、病院で死亡となっているのが現状である。

福祉から医療分野への措置や入院があり医療と福祉は連携されにくい傾向が見えた。

古い、介護、終末ケアいずれも社会福祉の課題であるが、終末に向き合う介護と他職種が福祉職域の理解と協働が急務である。

本研究に協力下さった全国の多くの高齢者施設、在宅福祉サービス、地域密着型サービスそして貴重なご意見を下さったご家族の方々に深く感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。この成果は広く一般の方々へ公開し学会等で報告していく予定です。

関係者の皆様、本当にありがとうございました。

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計0件)

### 〔学会等発表〕(計2件)

- ・日本における終末ケアの研究 **Medtec Japan 2018、2018、4月18日~20日**  
(東京ビックサイト)
- ・リハビリ折り紙の研究、**Medtec Japan 2018、2018、4月18日~20日**(東京ビックサイト)

### 〔図書〕(計10件)

#### 著書

- ・図書新聞、「シシリー・ソングダースの研究と生涯」2017年11月25日刊行。
- ・講談社電子版「自閉症の子を持つ大学教授が相模原事件・植松被告に尋ねた一つのこと」  
2018年8月29日、講談社現代ビジネス、電子書籍、ネット版。
- ・高齢者のクラフトサロン 紙でつくるリハビリクラフト、工房 GEN 著、誠文堂新光社、  
2017年、共著、127頁。
- ・高齢者のクラフトサロン 布とひもの手芸レクリエーション、工房 GEN 著誠文堂新光社、  
2015年。共著、143頁。
- ・高齢者のクラフトサロン 季節のリハビリクラフト、工房 GEN 著、誠文堂新光社、2014年、  
共著、126頁。
- ・高齢者への支援と介護保険制度、2014年、共著、262頁。
- ・高齢者のクラフトサロン リハビリおりがみ、誠文堂新光社、2014年、共著、126頁。
- ・杉本敏夫編 「学びを追究する高齢者福祉」[第2版] 保育出版、2017年、共著、194頁。
- ・Study of End-stage Care Management in Japan, 2014年 p1 - 237、単著、英文、237頁。
- ・杉本敏夫編「相談援助の基盤と専門職、久美出版 2014年、4版、共著、295頁。

### 〔メディア関係・新聞〕(計33件)

#### 新聞等メディアへの掲載

相模原殺傷被告手記書籍化へ	静岡新聞	地方版	30.6.5
相模原殺傷被告手記書籍化に抗議	静岡新聞	地方版	30.6.8
障害者殺傷事件被告の手記掲載の本出へ	NHK NEWSWEB	全国版	30.6.21
相模原事件被告の手記・編集長の考えに	朝日新聞	全国版	30.7.23
植松被告の「手記」に波紋	東京新聞	地方版	30.7.25
被告の手記出版で波紋	岩手日報	地方版	30.7.25
やまゆり園事件から2年植松被告の手記	東京新聞	web版	30.7.25
相模原事件、遺族やり場ない思い	静岡新聞	地方版	30.7.26
被告の主張記載本賛否	読売新聞	地方版	30.7.28
高齢者のリハビリ「折り紙が効果」発表	静岡新聞	地方版	30.4.21

特別支援学校の環境良くして	静岡新聞	地方版	30.1.29
被告の手記出版中止を	静岡新聞	地方版	30.6.22
被告今も主張改めず 福祉専門家面会重ね	毎日新聞	全国版	30.7.24
障害ある息子の父面会重ねる	読売新聞	全国版	30.7.27
デスク日誌 やまゆり園	河北新報	地方版	30.9.1
知事推奨と誤解招くやまゆり園事件被告	神奈川新聞	地方版	30.9.22
「評価してない」抗議文に県回答言	神奈川新聞	地方版	30.10.10
殺傷事件被告手記図書館長が「評価」	毎日新聞	地方版	30.10.26
功労・有功者 30人3団体 表彰式	静岡新聞	地方版	30.11.1
被告手記貸し出し禁止に 短大部教授陳情	静岡新聞	地方版	30.11.8
相模原事件考え語り合う	静岡新聞	地方版	30.12.18
生活保護厳しさ知って 受給者学生に語る	中日新聞	地方版	30.12.22
利用者給与 入信料天引き	朝日新聞	地方版	31.2.14
折り紙リハビリ、全国検証	静岡新聞	全県版	29.7.12
クラフトでリハビリ	静岡新聞	地方版	27.6.11
介護予防に手本	中日新聞	地方版	26.4.10
終末ケアの自著英訳 県立大短期大学部	佐々木教授出版 静岡新聞	県内総合	26.2.28
相模原事件を受け共生を考えるシンポ	読売新聞	地方版	30.1.10
静岡北特別支援学校の改善要望	静岡新聞	地方版	30.5.24
患者との関わり方探る	静岡新聞	地方版	29.11.18
大自在	静岡新聞	第一面	29.7.8
相模原事件を考える	中日新聞	地方版	30.1.23
ゴミ屋敷改善へ地域が目	静岡新聞	地方版	26.8.8
貸自転車の輪 学生を応援	中日新聞	全県版	28.4.10

#### テレビ、ラジオ関係出演（計4件）

- ・おはよう静岡「北特別支援アンケート」 NHK 静岡 TV 地方版 30.5.23
- ・たっぷり静岡 「足りない特別支援学校」 NHK 静岡 TV 地方版 30.5.23
- ・やまゆり園：被告手記出版中止を SBS 静岡 県内 30.6.22
- ・やまゆり園事件から3年、静岡市障害者施設の現状 NHK 全国放送、NEWS,9：2018,7,26

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

取得状況（計0件）

#### 6. 研究組織

(1) 研究分担者 なし

(2) 研究協力者：

研究協力者氏名： 佐野 治

ローマ字氏名： Sano Osamu

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。